

高松市自治基本条例と総合計画の関係について

委員からの御意見（H26.9.1）

1 ラウンドテーブルについて

- (1) ラウンドテーブルは、一般市民よりも、ちょっとした知識を持っている人やリーダー的な人などを集めて実施する方が良いのではないか。
- (2) 協働に実際に携わっている人や地域コミュニティの活動に携わっている人など、実質的に自治推進のため動いている人の意見をきちっと吸い上げることが重要で、その方が効率的だと思う。

2 地域コミュニティ協議会への説明会について

地域コミュニティは、様々な分野、階層に携わっている。まちづくりの全てに携わっているため、あれもこれもしなくてはならない。コミュニティ協議会としては、単年度ごとに大きな目標を掲げてもらいたい。

3 パブリックコメントについて

- (1) パブリックコメントを2回実施するようになっているが、これは、本審議会での意見が生かされている。最近、パブリックコメントの意見数が少ないと聞かすが、計画等の原案が出来上がる前段階で実施するパブリックコメントで、多くの意見が出ることを願う。
また、パブリックコメントを実施していることを知らなかったというのでは困るので、周知にも御留意いただきたい。
- (2) タイトルや表現を工夫するなど、市民が分かりやすいように工夫してもらいたい。
- (3) 高松市は、情報提供・発信が下手だと思う。広報誌は、自治会に入っていないと配達されていない。もう少し、情報提供を真剣にやらないといけない。市民に関心を持ってもらわないといけない。
- (4) 行政が、様々な懸案事項を決定する際に、流れとしてパブリックコメントを実施したから、全ての市民の意見を聞いたというようなことは、絶対にやめてほしい。実のあるパブリックコメントにしてもらいたい。
- (5) 総合計画の策定スケジュールにもあるように、原案が出来上がる前の第1段階のパブリックコメントを特に有効に使っていただけるような工夫をしてもらいたい。